

近世人物誌

やまご新聞附録第七

力士梅ヶ谷藤太郎
 梅ヶ谷 筑前福岡在の出生なり幼少
 父と亡ひ家負へけき新米賣
 て市出幸 母を養ひ居たりが人の
 進め申り大阪に出て角敵となりふ
 貴程も大関となり梅ヶ谷の名聞
 の東西聞て罵たり或時古郷の
 母を大阪迎へんとせぬ母の住
 馴れ地を離るるを好まぬ田畑敷
 丁をもち母を隠居の料なり其
 後深く前途を慮り河ありて江戸に出
 當時相僕道を行くも抄子定規の歴
 制を以て固守 昨日日難波の大関と
 称せられ身も今日江都の幕下にお
 けり尚徳色もあつた勉勵一欠も大関の要
 地を向かふ敵古の谷風中右の陳
 幕と伯沖の間ありの詩あり遂に去る
 十七年の春横綱免許の榮を得たりが
 恰も好其年賢き邊りの御覽を忝
 御前がて言入る衣入を御腹と太方持
 結を露拂ひとせし遠くを例とせし
 此大見相僕も勝を得て昨日の大関協
 けり弓も賜り程を辭し五年奇
 かり同社會としての殊重んぎへき雷
 椎太夫の名を相続 東の幕の内 過半
 氏内人たり凡そ此道開けて以來の如き
 始終芽出度人を見たりと



芳年
 芳年

發行所 東京 橋區 山崎町 山崎新聞社
 電話 東區 依二

彫工 園浩